



小さき群

救主降世2013年3月号 第81号

2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

おひとりさま

遠藤亜紀子

ある。子どもの成長によりこんな家族が最近増えていると聞く。

春が近づくと土を触りたくて、うずうずする。耕した畑にそっと手を入れて、ほこほこになった土の感触を楽しむ。ここに来て19年。毎年こんな風に春を迎えている。

うちの庭は結構広い。夫が子供に広い土地で伸び伸び育てたい、野菜作りもしてみたいと言うので、夢と希望を持って音更郊外に家を建てた。お金が無かったので庭づくりは、二人で土

や砂利を敷いてブロックを並べ花壇と畑を作った。木を植え、芝生も自分たちで敷いた。子どもが小さい時は、タイヤ飛びや池など作って楽しんだ。おかげでうちは、学童預かりかと思うくらい近所の子が遊びに来てくれた。

野菜作りにも挑戦した。失敗は数知れずある。毎年、夏になると買った方が安かったと思う。だが、買ったのよりだんぜん美味しい！という家族の声に乗せられ、つい又作ってしまう。

夢と希望を語ってくれた夫は、今年で札幌単身赴任6年目になる。男手を失った我が家の庭は、犬が伸び伸び遊び、芝生は影も形も無くなってしまった。昨年、長女の真帆が進学し家を離れ、今年は次女の佳帆も札幌への進学が決まった。

春から私は“おひとりさま生活”になる。夫の所へ行こうか考えたが、犬3匹と鳥2羽飼育OKの物件は見つからず、とりあえず残ることにした。

家族がバラバラで寂しいとは思わない。木の根のように深いところで繋がっている気がするし、気ままなひとり暮らしはちょっと楽しみで

ところで話は飛ぶが、私はあまり教会に顔を出さない。日々の仕事、生活に追われつついつい足が遠のいてしまう。たまに行くとも礼拝の後に紹介されてしまう位ご無沙汰して反省である。そして、ずっと変わらず守られている礼拝と祈りの言葉。帰る場所が用意されている事に感謝の気持ちで一杯になる。これからは真面目に来ようとその時は思っているのに……また反省。



さて、我が家はそれぞれが“おひとり様”と言う生活が始まる。夫はだいぶん慣れたようで、休みは山登りやジョギングを一人で楽しんでいる。

長女は大学のオーケストラに所属しトロンボーンの実習と飲み会で忙しいようだ。心配なのは“おひとり様初心者”の次女だ。ちょっと温室で育てすぎたかも知れない

が、少しずつ風に当たって強くなって欲しい。

さあ私は、春になったらまた種を蒔こうかな。変わらない風景の中、おいしい野菜を用意してみんなの帰りを待つことにしよう。

季節の風
読みおへる
聖書の重み
春の雪
羽州

◎大斎節の最中です

復活日（イースター）から四十六日前の水曜日を灰の水曜日^{※1}と呼び、その日から六回の日曜日を除く復活日前日の土曜日までの四十日間が『大斎節』となります。この「四十」と言う数字は聖書の中で特別な意味を持ちます。「出エジプト記」でモーセとイスラエルの民が四十年間荒野をさまよい、主イエスは四十日間荒野で断食し、悪魔の誘惑を受けたことに倣っています。

※1…前年の「復活前主日」に祝別された棕櫚（シュロ）の十字架（主イエス・キリストのエルサレム入城を記念するもの）を燃やし、その灰による祝別式と塗布が行われる。書記の時代には頭から祝別された灰を被ったと言われていました。

伝統的に神への祈り、自分に対しての節制、他者への慈善がこの大斎節の精神であると思います。その意味でも手元に残ったたとえ僅かなお金でも「大斎克己献金」として復活日に捧げることは大きな意味を持つのです。

『永遠にいます全能の神よ、あなたは造られたものをひとつも憎まず、悔い改めるすべての罪人を赦してください。どうかわたしたちのうちに悔い改めの心を新たに起こしてください。わたしたちが罪を悲しみ、その災いを悟り、完全な赦しと平安にあずかることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン』

この『大斎始日』の祈りをもって大斎節が始まります。特に食べ物の節制はしない人びとも、信仰の業の励行に留意します。イエスの生涯とその苦難に思いをはせながら、自らを省みて、深い祈りの時を持ちます。日本聖公会では、節制によって手元に残ったお金を特別な献金（克己献金）として捧げます。今年はその一部が「国内伝道強化プロジェクト」として京都教区の「ほっこり宣教プロジェクト」と中部教区の「可児ミッション伝道所の用地取得と建物建設」に捧げられます。前者は通院治療及び付添家族の宿泊支援施設を建設しようとするもので、後者は可児伝道所の働きが地域の様々な人々が集う教会を期待してのものです。

※『大斎節』の期間中の3月11日は『東日本大震災』が起こった日です。これからもずっとこの慎みの時節の最中（さなか）にあることは意味ある事と思います。

◎復活日までの教会の暦

棕櫚（しゅろ）の日曜日

復活前主日から復活日までの1週間を聖週と言いますが、始まりの復活前主日は別名「しゅろの日曜日」とも言います。これはイエス・キリストのエルサレム入城を記念する日にあたり、群衆がしゅろの枝を取って出迎えたことにちなんでいます。この日に渡されたしゅろの十字架は翌年の大斎始日（灰の水曜日）に焼いて、罪を悔いたしるしとしてその灰で額に十字の印をつけます。

聖金曜日（受苦日）

イエス・キリストがゴルゴダの丘で十字架にかけられた亡くなったことを記念する日。聖公会では十字架に黒布をかけてイエスの受難と死を思って祈りをささげます。またかつての日本聖公会の戦前の祈禱書にはコダヤ人、イスラム教徒、未信者及び異教徒のために祈りをささげる受苦日の特禱がありました。

聖金曜日に十字架にかけられた黒い布は白い布に代わり聖霊降臨日（ペンテコステ）前週に終わる復活節まで十字架は覆われます。これは復活したイエス・キリストを象徴してのことです。

復活日（イースター）

復活日はキリスト教にとって最も重要な祝日で、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日目に復活したことを記念する日です。復活日は「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」に祝うことになっているので年によって日付が変わります。

今日ではイースター・エッグが復活日のシンボルになっていますが、これは生命再生のシンボルであり同様にウサギは旺盛な繁殖力から復活や命の象徴とされ共に小さな子供たちにとって興味をそそるものです。

☆復活のろうそく

復活祭以降、祭壇近くに大きなろうそくが置かれます。「復活のろうそく」（パスカ・キャンドル）と言われるろうそくです。このろうそくは復活のキリストが私たちと共に居ることを現し、「聖霊降臨日」（ペンテコステ）までの日曜日に灯されます。アルファ（Α）とオメガ（Ω）の紋様が記されていますが、ギリシャ語の最初と最後の文字で黙示録にある「わたしはアルファであり、オメガである」からきています。このろうそくはイエスが墓の闇から光となって復活したことを象徴し、復活のしるしとして葬儀などにも用いられます。

12. 紫

ティアティア市出身の紫布を商う人で、神をあがめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので、彼女はパウロの話に注意深く聞いた。

(使徒言行録 16 章 14 節)

「紫布を商う」という言い回しは不思議です。「上等の絹布を商う」とか、「珍しい亜麻布を商う」のように、肝心なのは、材質でしょう。しかし、ここでは、ほかの色ではなく紫布であることが強調されているのです。

当時は布の値打ちは材質よりも色によって決まりました。特に紫色は、地中海東岸に生息する悪鬼貝(シリヤツブリ)と称される巻き貝のごく小さなパープル腺という器官をつぶして出る汁で染めるのです。絞りたての汁は黄色ですが、布を染めて太陽光にさらしておくと、次第に紫色に変わり、時間がたつとともにきれいな紫色に変化します。洗っても色落ちしません。しかし、ひとつの貝からとれる染料はごくわずかですから非常に高価なものになります。この紫を産地にちなんで「ツロの紫」というだけでなく、権力を示す「ローマ紫」「帝王紫」などとも呼ばれました。紫布は高価なものです。時代によれば、紫色は王侯貴族の独占で、一般の人は身に着けることが禁止されていました。

旧約聖書でも紫の衣服が権力の象徴となっています。イスラエルの北の地名「フェニキア」は「紫に染める」を意味し、彼らの特許工芸品だったので、フェニキア人はそれらを地中海沿岸に広く売りさばき、地中海沿岸に植民地をいくつか作りました。商人のメモ書きに使える文字を発明したのもフェニキア人です。ティアティアの紫布の商人で神を敬う婦人リディアの記事は、「むらさき」が重要な商品であったこと示しています。

日本の「むらさき」は紫草の根から得られるもので、古代紫として知られています。この色素は「シコニン」といいます。

紫布を商う商人は裕福であったと想像されます。新興宗教のキリスト教は貧しい人、虐げられた人に信じられていましたが、裕福な人にも受け入れられたということを表しているのでしょうか。

(『聖書に見られる理科のことは』文芸社刊より)

2月の教会委員会での主な報告・決議

1. 主教巡回日の堅信式につき予定者を確認。
2. 今年度の教区修養会のスケジュール案の報告を受けた。
3. 東日本大震災第2次支援献金は3月末で終了。支援献金預り金は釜石支援センター支援物資継続送付の原資とする。



イースターエッグ

復活祭を祝うための特別に飾り付けられた鶏卵。

元々は染めたり塗ったりした茹卵を使うが、チョコレートやゼリーで作られたものもある。

イースターを象徴するものとして表現されるが、ウサギも同様にイースターのシンボルである。共に、豊穡の代名詞であり古くから存在した。

卵は肉類に分類され、大斎節(カトリックは四旬節)中は食べるのを禁じられた。また、マグダラのマリアが皇帝に“赤い卵”を献上したという伝承から、キリストの血によって墓の闇から復活した象徴としても考えられている。

この頃は、染めたり塗ったりした卵ではなく、シールを貼ったりラップフィルムを掛けてお湯に浸けることで収縮するもの等が多く利用されている。

イースターエッグの中には、食べることが出来ないものもある。インペリアル・イースター・エッグがそうだ。これは宝石の装飾が施され、ロシア皇帝がつくらせたものである。金銀ダイヤなどで精密な細工がされていて58個作らせたうち、ロシア革命などで4分の1が行方不明となっている。『開運!なんでも鑑定団』にでも出品されたらエライことになるかも。

タマゴだけに……………考えたが浮かばん

パクリだが、

タマゴとかけて、「慎重な人生」と解く

心は「日々、我(ひび割れ)に注意」

(正に、大斎節の中)

※ちなみに、『大斎節』と『降臨節』の祭色は紫です。

編集後記

昨秋見た光景が脳裏に残ってる。石巻と名取市閼上。真黒くそしてうず高く積み上げられた震災瓦礫の山。夕方近く、薄暗くなりかけた中、しかも飛行機も飛ばないと言うほどの物凄い強風。何かに掴まらないと立っているのも困難な状況。視界には建物があつたのだろう土台だけが見える。その地区だけでも数百の命が失われたと言う。何故かその場所は“日和山”と呼ばれている。名前から連想するものとはかけ離れた別世界。

あの時から2年目を迎える。東北教区のカサネ主教は震災の主教メッセージの最後で祈られている。
『これから始める長い道のりと思います。主の御守りが人々の上にありますように、わたしたちの歩みが主のみ心にかなうものとなりますように祈ります。』

編集子

| 3月の誕生者 | |
|----------|----------|
| 1 渡部運吉 | 18 辻 美代 |
| 2 杉山恵子 | 20 今福朝子 |
| 2 司祭下澤 昌 | 20 飯塚亮汰 |
| 3 金坂八百子 | 21 原口 晃 |
| 3 大村愛子 | 22 大村キヨ子 |
| 3 斉藤節子 | 25 川田信子 |
| 5 小林 潤 | 30 船津ともえ |
| 7 臼田時子 | 31 小林 充 |
| 8 大村篤志 | 31 飯塚彩斗 |
| 9 今福孝志 | |
| 9 中村雅浩 | |